

サケをわざわざ一匹ずつ捕る事実から

アイヌ民族の「自然との共生への思い」に迫る授業

札幌市立幌西小学校 教諭 伊藤 健太郎

小学校 第4学年

単元名 「アイヌの人たちの生活と文化」

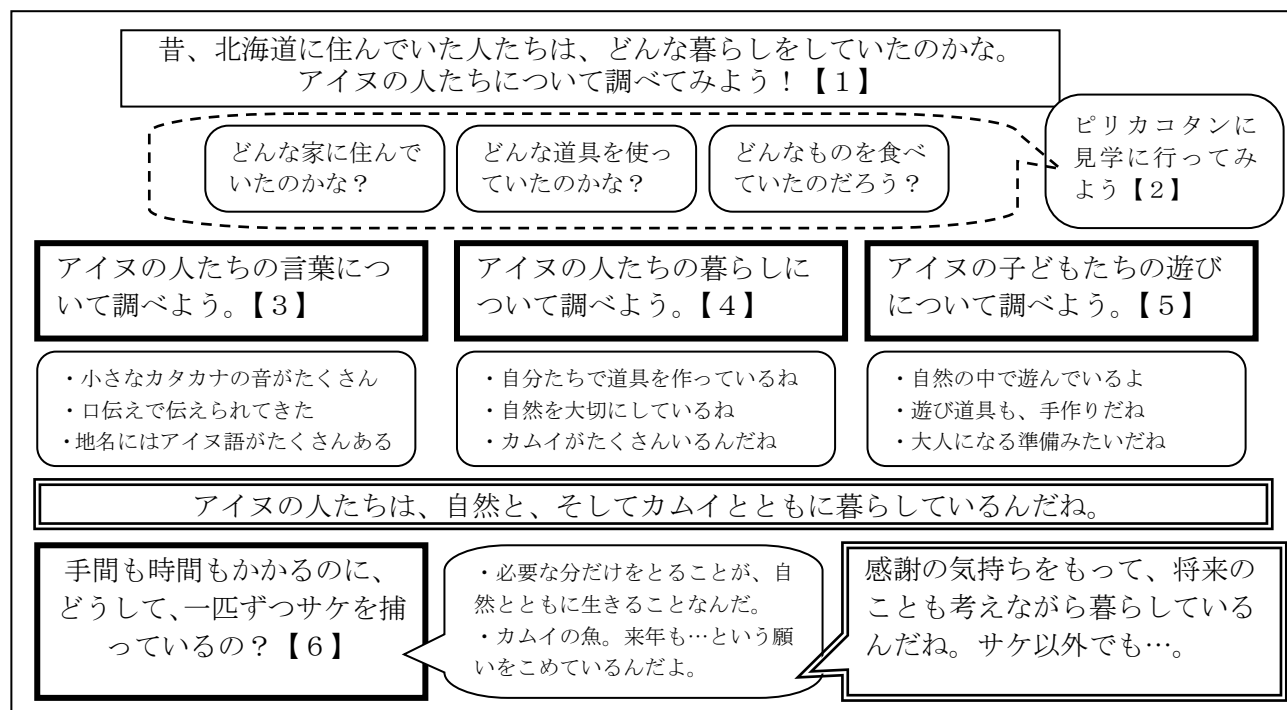
【1】単元のねらい

本単元の学習を、アイヌの人たちが自然とともに生き、自然を大切にしている生活を営んでいたことを子どもが共感的に理解できるように構成することで文化の違いに気付き、そのよさを認める機会となる。北海道では、昔から、アイヌの人たちが自然と調和し、独自の文化を大切にしながら豊かに生活してきた。アイヌの人たちの生活は言葉や慣習、宗教観や自然観など、現代に生きる我々と異なる点もある。アイヌの人たちがどんなことを大切にしていたかを理解し、自然や神に感謝して、自然と共生している姿を学ぶことは、自分たちの普段の生活や生き方を見つめ直す機会につながる。

本時では、「鮭を一匹ずつ捕っていたのはなぜか」を考える。アイヌの人たちにとって、サケは主食であり魚の中で最も重要であったにも関わらず、手間も時間もかかるやり方で一匹ずつ捕る方法について子どもは問題意識をもち、追究していく。

すると、アイヌの人たちの「自然と人間との共生」への思いに気付くことができる。自分たちの生活と比較することで、アイヌの人たちの自然と共存する意識を浮き彫りにすることができるのである。

【2】単元構成（6時間扱い）



【3】本時の目標

アイヌの人たちがマレク(川や湖でサケ・マスなどを捕るときに使ったモリ)を使って必要な分だけ鮭を捕っていた意味を考えることで、自然を大切に生活をしてきたことに気づき、アイヌの人たちの生活や文化のよさに共感することができる。 【思考・判断・表現】

【4】本時の展開 (6/6)

子どもの学習	教師の関わり
<p>アイヌの人たちのサケの捕り方を調べてみよう。</p> <p>・副読本や資料などを使って</p> <p>網でも捕っているよ</p> <p>船に乗って? さおで?</p> <p>1本ずつマレクでも捕っているよ!</p> <p>冬を越したり、倭人と交易したりするためにはたくさん必要なはず。</p> <p>・模擬体験をしてみる</p> <p>これでは、1本ずつしか捕れないよ</p> <p>慣れるまで難しい! 逃げられるかも!</p> <p>一匹を捕るのにも時間がかかり</p> <p>どうして一匹ずつ捕っていたのかな?</p>	<p>・網で捕る漁法とマレクで捕る漁法を映像で比較し、問いを生む。</p> <p>・実際に使い、イメージを明確にすることで、網を用いた漁と比べ、不便さを浮き彫りにする。</p>
<p>食べるものとしての鮭</p> <p>・鮭以外にも、食べるものがあつたはずだ</p> <p>・食べる分だけ捕っていた</p> <p>・交換する分もあつたはず</p> <p>・とっておけないから <u>必要な分だけ</u>。</p> <p>感謝の気持ち</p> <p>自然の一部としての鮭</p> <p>・無駄にしないように</p> <p>→身だけでなく、骨や皮も</p> <p>・神様の魚だから、優しく扱おう</p> <p>・逃げられても仕方ない</p> <p>→来年も捕れるよ</p>	<p>・既習を活かし、アイヌの人々の立場に立って考えてみることで、アイヌの人たちの自然観をまとめていく。</p> <p>・様々な儀式や生活様式について、既習を生かし話し合う。</p>
<p>捕ったサケは、捨てる所無く、骨や皮まで使っているんだね</p>	
<p>感謝の気持ちをもちながら、将来のことまで考えて、必要な分だけ捕るようにしているんだね。</p>	<p>・資料を提示する。</p>
<p>・学習の振り返り</p> <p>自然を大切に生きた生き方をしていたんだね。</p> <p>未来のことも考えて、生活していたんだね。</p> <p>私たちも、見習ったらいいことがあるいそうだね。</p> <p>・考えを確かめ、広げる</p> <p>1本の木全部剥がすと、アツシ1着作れるんだけど、1/3くらいしかはがさないんだよ。</p> <p>1/3だけ川がはがされた木の写真</p> <p>全部はがしたら、木が弱くなって倒れてしまうからだね。将来も皮をもらえるように考えているね。</p>	<p>・鮭以外の事例を取り上げ、アイヌの人たちが同じように自然を大切にしていたことを考えられるようにする。</p>

【5】課題探究的な学習を取り入れた授業の充実

本実践においては、「一冬越すためには、たくさんの鮭が必要ではないか」と考えている子どもに、鮭を一匹ずつ捕っている事実を提示して、「どうして一匹ずつ捕っていたのかな」と、子どもが興味・関心、疑問を十分にもたせ、学習に対して意欲的に取り組むことができた。